専修大学一般選抜前期入学試験
全学部入学試験
経済学部，法学部，経営学部，
商学部，文学部，人間科学部，
国際コミュニケーション学部
ネットワーク情報学部

ソ11

2026（令和８）年度入学試験問題

国　　語

1．**試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。**

2．試験時間は60分です。

3．この問題の本文は全部で18ページ（問題一・二）です。
ネットワーク情報学部では，問題一のみを採点の対象とします。
問題二は，ネットワーク情報学部のみを受験する方は解答しなくても結構です。
同一日に他の学部を受験する方はすべてを解答してください。

4．試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせてください。

5．解答は，設問に従って，該当する解答欄にマークしてください。**なお，すべてマーク解答問題です。**解答にあたっては，必ず**黒の鉛筆**または**シャープペンシル**を使用してください。

6．**解答用紙**に記入するときには，下記の点に注意してください。
(1) 氏名・受験番号を所定欄に記入し，該当するマーク欄を正確にマークすること。
(機械処理上，非常に重要なので誤記のないよう注意してください。)
(2) 訂正する場合は，プラスチック消しゴムで完全に消してから改めて書き直すこと。
(3) 指定した解答欄以外および枠外の空白部分には何も書かないこと。
(4) 解答用紙は，折り曲げたり汚したりしないこと。
(5) 解答用紙の解答欄をマークするときは，次の（例）のようにマーク解答欄の番号をぬりつぶすこと。

（例）　③と解答する場合

マーク解答欄									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⓪

7．問題冊子の余白等は適宜利用してかまいません。

8．試験終了後，問題冊子は持ち帰ってください。

ソ11

問題一（現代文）

全員が解答してください。

問題一　次の文章は、中村桂子『人類はどこで間違えたのか』の一部である。これを読み、後の設問に答えなさい。

現代社会が抱える自然破壊などさまざまな課題の原因は、農業を始めたところにあると言われるまでになった今、農業の見直しが必要であることは確かです。しかも、目の前で起きていることをどう変えるかという発想では対応が難しいところまできており、「農業革命は詐欺である」という言葉を意識しながらの見直しが必要です。それは機械論に基づく現代社会の価値観の見直しでもあり、生命誌が明らかにした「人間は生きもの」という事実を知った上で、農業を始めたらどうなっていただろうという発想に辿りつきました。

まず、A1万年前の農耕への移行の際に見られた問題点をあげます。狩猟採集生活の方が多様な食物をとり健康で時間的余裕があったことがわかっているのに、農耕民の方が優位になっていった原因は人口です。農耕の方が養える人数が多いので人口が増え、狩猟採集民を追いやって自分たちの土地を増やしていきました。人口こそ力という捉え方は今も続いています。

農耕の主要作物である穀物は貯蔵可能であるために、農耕に携わらなくとも食べていける人々が生まれ、その後の階級社会へとつながっていきます。そこから富と権力の集中も生まれてくるのです。現在の農耕の歴史を見てそこにある問題点を指摘したダイ(注)アモンドは、このような農耕のあり方を見直し、それとは異なる「祝福にあふれた農業の営みを実現する方法」を見つけ出せるだろうかと問うています。これはWまさに、生命誌が問うていることです。実は、ダイアモンドの口調にはこれは難しいぞという響きが感じられます。そうでしょう。でも「祝福にあふれた農業の営み」を見つけなければ人類の未来は危ういのですから、考える他ありません。

ダイアモンドの指摘のように、とても難しいであろう農耕の見直しをするには、農耕社会から産業革命、科学技術革命へとつながった歴史を見て、問題点を検証する必要があります。

狩猟採集から農耕へというサピエンスだけが歩んだ独自の道が文明を生み出し、それが大きく展開して科学技術文明が生まれました。こうして現代人は我が世の春を謳歌してきました。食べもので言うなら飢餓より肥満に悩む人の数の方が多いと言われます

し、東京では世界中の料理を楽しめます。平均寿命は年を追って伸びており、医療の進歩がさらにそれを延長すると期待されています。

けれども、21世紀が始まってから、文明の未来は危ういと感じる人が増えてきました。サピエンスに未来はあるのか。誰にも予測できることではありませんし、悪い未来を望むものではありませんが、東日本大震災に代表される自然災害、気候変動、コロナパンデミックなどの中で多くの人がなんとなく不安を感じていることは確かです。一つには、これらの原因がどう考えても人間活動にあると思わざるを得ないからです。東日本大震災も原子力発電所の事故があったために、10年以上たっても人が暮らせない地域ができてしまいました。二酸化炭素の排出量の抑制、ウイルスワクチンの開発など個々の事柄への対処はもちろん必要です。けれども科学技術や社会制度などの力だけでの解決は無理です。そのように言い切る根拠をデータで示すことはできません。ここは生きものとしての直観で、基本からの見直しという立場で考えます。

未来を語る時、地球が危ういとか生きものたちが滅びると言われることがありますが、危ういのは人間なのです。地球が太陽の終焉（えん）と共に終わりを迎えることはあっても、人間の力で滅びることはありません。太陽は今後50億年は続くとされますので、地球の心配はしなくてよいでしょう。

地球上の生きものたちはどうでしょう。これはわかりませんが、生命システムは46億年の地球の歴史の中で40億年間進化をしながら続いてきました。もちろん何度も大絶滅はありましたし、これからもあるでしょうが、その中でも必ず生き残るものがあり、しぶとく続いてきたのが生命システムです。地球のありようはこれまでも変化を続けてきましたし、今後も変化します。小惑星のX<u>ショウトツ</u>もあるでしょう。さまざまな災害はあっても、地球から生きものたちがいなくなることはないだろう。これまでの生きものの科学が教えてくれるのは、B<u>このシステムのロバストネス（頑強性、堅牢（ろう）性）</u>です。

問題は人間です。生きものとしての人間は生きる力を退化させ、滅びの道を歩いているように見えます。

危うさの原因は、「［　C　］」という事実を無視した物語をつくったところにあると思えます。物語は、自然の操作

である農耕から始まり、いつの間にか自然を無視した暮らし方を進歩と呼び、それに絶対の価値を置きました。そこで大事な役割をしたのが科学であり、科学技術です。

科学は魅力的な学問ですが、進歩観のもとで科学技術を進めることが良い選択とは思えず、科学に基礎を置きながら「べつの道」を探る「生命誌」という知を考えました。「『私たち生きもの』の中の私」という現実を基本に置いた物語を紡ぎ、時には自然界の生きものたちが紡いでいる物語を読むことで、自然の一員であることを意識しながら自然を解明し続けて行きたいのです。こうして生きものとしての「本来の道」[D]を歩けば、破滅を避けることができるのではないか。やや大仰な[Y]言い方をするなら、文明の再構築の試みです。

農耕の始まりの場、つまり現在私たちの食生活を支える中心的作物が最初に栽培されたとされる地域は、南西アジア（コムギ、エンドウなど）、中国長江流域（アワ、キビ、コメなど）、中央アメリカ（トウモロコシなど）、アンデス（ジャガイモなど）、北アメリカ東部（ヒマワリ）の5ヶ所であることがわかってきました。この中で最古とされるのが紀元前8500年頃の南西アジア（メソポタミア）であり、コムギなどの栽培の他、ヤギの家畜化も行われていました。

興味深いのは、その後紀元前3500年までの間に主要作物にオオムギなどが加わりはしたものの、この5地域で栽培され始めた作物が今も食され、しかも私たちの摂取カロリーのほとんどがこれらに頼っているということです。つまり、植物の中で栽培に適したものは非常に少なく、農耕を始めなかった地域は、そこに暮らす人々にその気がなかったからではなく、栽培できる植物がなかったためと言えそうです。

こうして限られた人々が農耕を始めたのではなく、限られた植物が農耕を可能にしたのだと知ると、人間と自然の関係をこれまで人間の支配という目で見過ぎていたことに気づきます。狩猟採集時代には多種多様な植物や動物を食べていたことがわかっており、今私たちが知っている栄養という概念で見た時に理想的と言ってもよい食生活をしていたようなのです。この時の方が自然をよく知り、ある意味豊かな生活をしていたとも言えるわけです。狩猟採集から農耕への移行は、両者が混じり合いながら徐々に農

ソ11

耕文明へと移りました。ここでの課題は「多様性」の消失でしょう。多様性の重要さはさまざまな側面から明らかになっており、農業においてそれが重視されてこなかったことは、頭に止めておきたいことです。

最近の研究から、食物の多様性に限らず日常生活も狩猟採集時代の方が「豊か」だったという見方が出てきています。農耕生活の始まりの頃と比べてのことだけではなく、現在の私たちの暮らし方と比べてもそう言えるとする研究者もいます。「豊か」とは、皆が日常を快適に送るという意味です。

（中略）農耕民には栄養失調が見られます。しかも農耕生活では、その年の気候によって主要作物が不作になり、飢えに苦しむ場合が少なくなかったのに対し、狩猟採集の場合は、災害が起きたらその場所から移動すればよかったのです。労働時間も現存のアフリカでの狩猟採集民の場合、週に35～45時間という値が出されています。毎日の採集時間は3～6時間、狩りは3日に一度くらいしか行いません。そこで、皆で語り合う時間がたっぷりあるのです。

感染症の問題もあります。長い間私たちを苦しめてきた天然痘やはしかなどの感染症は、そのほとんどが家畜に由来するものであり、農耕社会になってから感染が拡大しました。当初の集落はゴミや排泄物などで不潔な状態でしたから、病気が広がりました。小さな集団で移動している狩猟採集社会では、病原体の感染は起こりにくかったので、これも決してよい方向へ向かったとは言えません。

このような比較から、研究者たちは狩猟採集生活を「豊か」と表現するようになり、以前のような野蛮人というイメージは、はっきり消えました。とはいえ子どもの死亡率は高く、大人になっても病気や怪我の治療は難しかったに違いありませんから、決してそこに戻ろうという暮らしでないことは明らかです。ただ自然の一員としてどう生きるかという問いを考える時に、思い出す必要がある時代であることは確かです。私たちとは無縁の遠い世界の話ではなく、自身の生き方に関わっていることを忘れてはなりません。

COVID-19 騒ぎの前は、感染症の時代は終わった気持ちでいたように思います。がん、高血圧、認知症のような病気には関心が

あっても、感染症はインフルエンザに気をつける程度、大した問題ではないという受け止め方です。しかし今や、それは思い上がりだったと気づかされました。自然界にはこのようなことがよくありますので、現代社会の見直しをする時には、思い込みをなくし、事実に向き合う必要があります。農耕社会、ひいてはそれをホッタン[Z]として始まった文明社会を考えていく時に参照しなければならない狩猟採集生活の特徴は少なくありません。

（設問の都合上、一部を改変した）

（注）ダイアモンド……アメリカの進化生物学者（一九三七―）

問一　傍線部W「まさに」と異なる品詞の語を次の①～⑥の中から一つ選び、**解答欄** **1** **にマーク**しなさい。

① 既に　② さらに　③ 急に　④ じきに　⑤ 特に　⑥ ついに

問二　傍線部X「ショウトツ」を漢字で書き表したとき、「ショウ」の漢字と組み合わせて二字の熟語と**ならないもの**を次の①～⑥の中から一つ選び、**解答欄** **2** **にマーク**しなさい。

① 動　② 折　③ 撃　④ 立　⑤ 害　⑥ 緩

問三　傍線部Y「大仰な」とあるが、その類義語としてもっとも適当なものを次の①～⑥の中から一つ選び、**解答欄** **3** **にマーク**しなさい。

① 誇大な　② 概略的な　③ 格式高い　④ 鷹揚な　⑤ 厳めしい　⑥ 大雑把な

ソ11

問四　傍線部Z「ホッタン」を漢字で書き表したとき、「タン」の漢字の訓読みとして正しいものを次の①～⑦の中から一つ選び、**解答欄** **4** **にマーク**しなさい。

① そる　② さぐる　③ は　④ あわい　⑤ そば　⑥ かつぐ　⑦ ひとえ

問五　傍線部A「1万年前の農耕への移行の際に見られた問題点」とあるが、その説明として**当てはまらないもの**を次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **5** **にマーク**しなさい。

① 人口が増えた結果、人口こそ力という現代もなお続く捉え方が生まれたこと
② 農耕に従事しない人々が生まれ、階級社会が生じ、富と権力の集中が発生したこと
③ 養える人数が増えた農耕民たちが、狩猟採集民を追い出して自らの土地を増やしたこと
④ 農耕への移行から科学技術文明へと展開した結果、肥満に悩む人の数が多くなったこと
⑤ 狩猟採集生活の方が、多様な食物をとり健康で時間的な余裕があったこと

問六　傍線部B「このシステムのロバストネス（頑強性、堅牢性）」とあるが、その内容としてもっとも適当なものを次の①～⑥の中から一つ選び、**解答欄** 6 **にマーク**しなさい。

① 地球上の生きものたちが、46億年の地球の歴史の中で、40億年間も進化しながら脈々と命をつないできたこと
② 農耕によって自然を操作し、進歩という名で自然を無視した暮らし方に絶対の価値を置いたこと
③ 太陽は今後50億年続くと言われているので、地球そのものが終焉する心配はしなくてもよいこと
④ 大絶滅を何度繰り返したとしても、その中で必ず生き残る生命があり、それらがしぶとく続いてきたこと
⑤ 変化を続けてきた地球のありようが、さまざまな災害を経ながら、今後も延々と進化していくこと
⑥ 生きる力を退化させてしまった生きものとしての人間が、滅びへと突き進んでいるように見えること

問七　空欄 C に入る表現としてもっとも適当なものを次の①～⑥の中から一つ選び、**解答欄** 7 **にマーク**しなさい。

① 地球は、人間の力だけで滅びることはない
② 人間は科学技術によって自然を操作できる
③ 自然界の生きものは人間との共存が可能だ
④ 人間は自然を無視した暮らし方をすべきだ
⑤ 地球の環境は、変化し続けるものである
⑥ 人間は生きものであり、自然の一部である

ソ11

問八　傍線部D「本来の道」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **8** **に**マークしなさい。

① 南西アジア（メソポタミア）では、紀元前8500年頃、コムギなどを栽培していた他、ヤギを家畜として飼育していたこと

② 人間も自然界における生きものの一種であるということを意識しながら自然を解明し、「生命誌」という知を探っていくこと

③ 科学は魅力的な学問であり、自然の一員である人間の暮らしを紡いでいくためにも、それらを進歩させていくべきであること

④ 言わば「文明の再構築」を試みることによって人間の破滅を回避し、科学技術を利用しながら自然を解明していくこと

⑤ 現代でもなお、紀元前の時代に栽培が始まった作物が食され、我々が必要とするカロリーの大半がこれらに頼っていること

ソ11

問九　傍線部E「狩猟採集時代の方が「豊か」だった」とあるが、その理由として**適当でないもの**を次の①～⑤の中から一つ選び、**解答欄** **9** **にマーク**しなさい。

① 狩猟採集時代の人々は多種多様な植物や動物を食べており、栄養という概念で考えると、理想的とも言える食生活を送っていたから

② その年の気候がよくない場合、主要作物が不作になってしまい、農耕生活を送る人たちが飢えや栄養失調を経験することもあったから

③ アフリカにおける狩猟採集民は、狩りや採集にあまり多くの時間をかけておらず、人々がお互いに語り合う時間を多く持っているから

④ 農耕社会に移行して以降、家畜に由来する天然痘やはしかなどの感染症が、ゴミや排泄物などで不潔な集落の中で拡大したから

⑤ 狩猟採集民は子どもの死亡率が高く、大人になっても病気や怪我の治療が難しかったかわりに、肥満に悩む人は少なかったから

ソ11

問一〇　後のア～ケのうち、本文の内容に**合致しないもの**の組み合わせを次の①～⑦の中から一つ選び、**解答欄** **10** **にマーク**しなさい。

① アイウ　② アクケ　③ イウカ　④ ウオク　⑤ エオカ　⑥ エキク　⑦ オキケ

ア　農耕社会から科学技術革命へと至った文明社会について考えていく場合には、かつての「豊か」だった狩猟採集生活時代の特徴を大いに参照するべきである

イ　21世紀以降、誰にも予測できない未来への不安を多くの人が感じているが、その原因を辿ると、これまで人間がしてきた活動にあると考えざるを得ない

ウ　狩猟採集文明から農耕文明に移行する際、さまざまな面で重要だった「多様性」が消失したが、農業においてはそもそも「多様性」が存在していなかった

エ　農耕を見直すことはとても困難ではあるものの、農耕社会から産業革命、科学技術革命へと発展してきた歴史を辿りつつ、その問題点を検証する必要がある

オ　人間が農業を始めたことが自然破壊などのさまざまな課題の遠因だと言われる現在、機械論に拠らない現代社会の価値観を見直していかなければならない

カ　ある地域で農耕が興らなかったのは栽培に適する植物がなかったためで、一定の人々が農耕を始めたというよりも、一定の植物が農耕を可能にしたといえる

キ　ダイアモンドは「祝福にあふれた農業の営みを実現する方法」を見つけられるかを問いかけているが、これは生命誌が問いかけていることと同じである

ク　現代社会から思い込みをなくし、事実に向き合うためには、インフルエンザは大した問題ではないといった現代社会の思

ソ11

い上がりに気づくことが必要である

ケ　文明の未来に危うさを感じる要因には、自然災害、気候変動、パンデミックなどがあるが、それらを科学技術や社会制度の力だけで解決することは困難である

ソ11

問題二（古文）

ネットワーク情報学部では採点の対象となりません。

ネットワーク情報学部のみを受験する方は解答しなくても結構です。

ネットワーク情報学部以外の学部を受験する方、およびネットワーク情報学部と他学部を併願している方は解答してください。

問題二 次の文章は、高師直が、人妻である女房に人を介して恋文を送ったものの、断られたとの報告を受けた場面から始まる。これを読み、後の設問に答えなさい。

師直にこの由かくと語りければ、聞くにいとど心あくがれて、A「さても度重ならば、B情に弱る心もなどかなかるべき。文を遣はしてみばや」とて、兼好といひける能書(注1)の人を呼び寄せて、紅葉重ねの薄様(注2)の、取る手も薫るばかりなるに、人知れぬ心の奥をくれぐれと引き返し引き返し、黒み過ぎてぞ遣はしける。返事遅しと待つところに、使ひやがて立ち帰り申しけるは、「御文をば手に取りながら、開けてだに見給はず、庭に捨てられつるを、人目にかけじと取つて帰りたるなり」と語りければ、師直大いに気を損じて、「ものの用に立たぬものは手書きなりけり。今日よりして、その兼好法師、これへ経廻らすべからず」と、書き手の僻事のやうに怒られけるこそをかしけれ。

かかりけるところに、(注4)薬師寺二郎左衛門尉公義、ふと来けるを、師直傍らに招き寄せ、「ここに文を遣れども返事もせず、Cけしからぬほどに気色つれなき女房のあるをばいかがすべき」とうち侘び給ひければ、薬師寺うち聞きて、この間(注5)沙汰あることよと思ひければ、うち案じて、「人みな岩木にて候はず。鳥獣だにも、かかる道には情けを知らぬことや候ふ。されば、恋になびかぬ女、昔より今に至るまで、日本、唐土、いまだうけたまはらず候ふ。ただかやうのことには、心を尽くし言葉を費やしてこそ、また面白き道も候へ。御心長く、今一度文を遣はされて、人の心を御覧候へかし」とて、師直に代はつて文を書きけるが、言葉をばいかに書くとも、思ふほどの心の色を知らせがたければとて、歌ばかり、

返すさへ手や触れけんと思ふにぞ我が文ながらうちも置かれぬD

と押し返し、仲立ち(注6)にこの文を取らせければ、使ひ、重ねて持ちて行き、「これこれ御覧ぜよ」とて、引きひらき、さし置きたりければ、女房、歌をつくづくと見給ひて、顔うち赤めて、大いにはづかしげなる風情にて、文を懐に押し入れて、のどやかに内へ入り給ひけるを、仲立ち、事あしからずと思ひければ、袖をひかへて、「御返事をばいかが申すべき」と責めければ、「何とか X ましし」と、誠におぼしほれたる有様なりけるが、ほれぼれと見帰りて、「重きが上の小夜衣(注7)」とばかり言ひさして、

内へぞ入り給ひける。使ひ、急ぎ立ち帰り、この由かくと語りければ、師直うち案じて、「これは、そもそも何事ぞ。たとへば小袖なんどを、あまた重くしてくれよとや。それならば、安きほどのことなり。色ある衣の二、三百も裁ち立ててまゐらすべし」と、のたまひけるこそをかしけれ。[E]

（「太平記」による）

（注1）能書……文字を上手に書くひと。後の「手書き」も同じ
（注2）薄様……恋文などに使われる紙の一つ
（注3）黒み過ぎて……紙が文字で真っ黒になるほどに
（注4）薬師寺二郎左衛門尉公義……師直の家来
（注5）この間沙汰あることよ……最近うわさになっていることだな
（注6）仲立ち……仲介する使者
（注7）重きが上の小夜衣……「さなきだに重きが上の小夜衣我がつまならぬつまな重ねそ」（新古今和歌集）を踏まえ、自分が夫のある身だということを暗に伝えている

ソ11

問一　傍線部A「いとど心あくがれて」の解釈としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄 11 にマーク**しなさい。

① はなはだしく邪心を抱いて
② いっそう心が引きつけられて
③ ますます後には引けなくなって
④ いよいよ嫌気がさして

問二　傍線部B「情に弱る心もなどかなかるべき」の解釈としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄 12 にマーク**しなさい。

① 私の思いが相手を困らせてしまうかもしれない
② 私の思いにほだされることもあるにちがいない
③ 私が弱気になってしまっては何も始まらない
④ 私の弱い心をなぐさめてくれるかもしれない

問三　傍線部C「けしからぬほどに気色つれなき」とあるが、師直がそのように考えた理由としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** 13 **にマーク**しなさい。

① 女房が、師直からの恋文をまったく読みもせずに、庭に捨ててしまったから
② 女房が、師直からの恋文を、他人の目を気にして手に取ろうとしなかったから
③ 女房が、師直からの恋文を開いただけで、文面までは読もうとしなかったから
④ 女房が、師直からの恋文を、他人の代筆では価値がないと送り返してきたから

問四　傍線部D「我が文ながらうちも置かれぬ」と考えた理由としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** 14 **にマーク**しなさい。

① つき返されてしまった手紙ではあるが、一度は女房が手に取ったものだから
② 好きな相手からつき返された手紙を、我が家に置いておくのはつらいから
③ この手紙を自分で女房に手渡せば、今度は女房の心にきっと届くと思ったから
④ この手紙をあらためて読み返すと、我ながらよく書けていると思ったから

問五　空欄 X に入る語としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** 15 **にマーク**しなさい。

① 言は　② 言ひ　③ 言ふ　④ 言へ

問六　傍線部E「をかしけれ」とあるが、作者は何をそのように思ったのか。その説明としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** **16** **にマーク**しなさい。

① 師直が、女房への恋文を仲介してくれた使者にも、褒美を忘れなかったこと
② 師直が、女房の気持ちを理解して、これまでの非礼を詫びようとしたこと
③ 師直が、女房の真意を理解できずに、大量の衣類を送りつけようとしたこと
④ 師直が、公義の助言を無視して、女房に重ねて贈り物をしようとしたこと

問七　本文の内容に合致するものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** **17** **にマーク**しなさい。

① 師直は、内に秘めた恋心を手紙にしたためて女房に送るべきかどうか、何度も考えた
② 公義は、自分の好きな相手に送る恋文ではないのでうまく書けず、和歌を一首だけ書いた
③ 公義は、鳥獣には鳥獣の道があるように、人には人の道があると女房に説いた
④ 使者は、再び恋文を届けた際の女房の反応を見て、今回はうまくいきそうだと思った

問八　「太平記」の説明としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** **18** **にマーク**しなさい。

① 和漢混交文と呼ばれる文体で書かれている
② 歌物語と呼ばれ、さまざまな和歌を軸に展開する
③ 「平家物語」と同様に、南北朝の争乱を描いている
④ 「方丈記」と同様に、作者が自分の人生を振り返った作品である